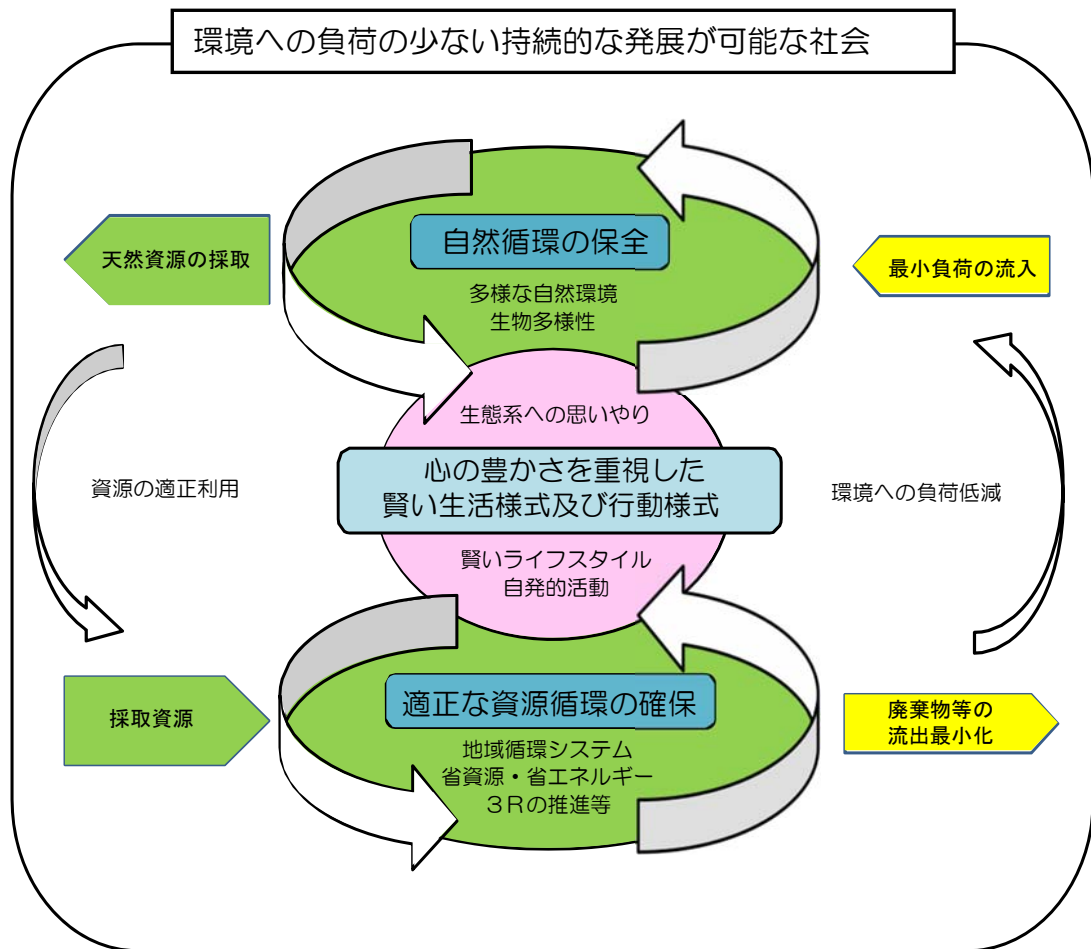


福島県循環型社会形成推進計画（骨子案・図表等）

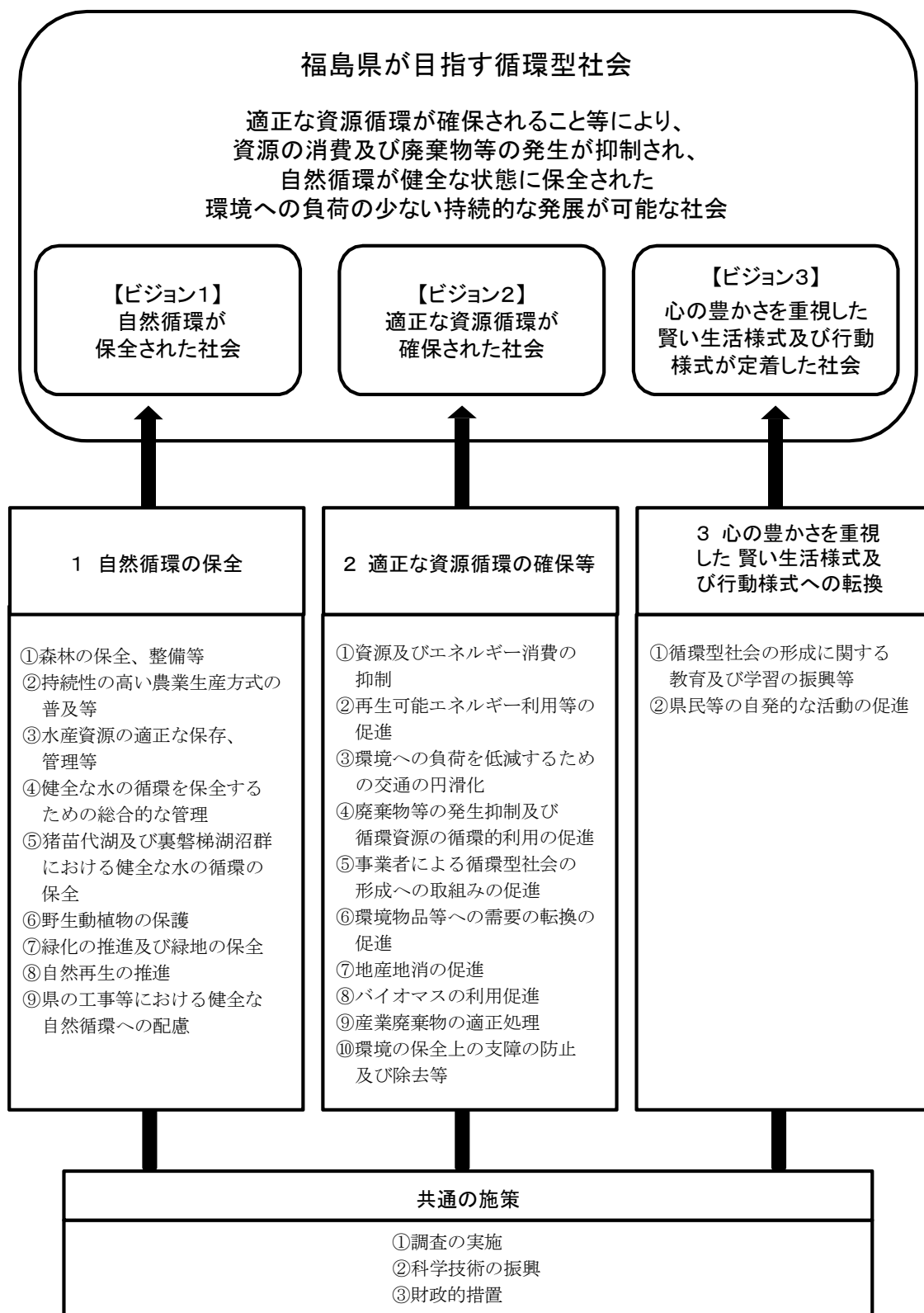
第4章 福島県が目指す循環型社会

資料 No. 2 (P. 3)



第5章 施策の体系

資料 No. 2 (P. 4)

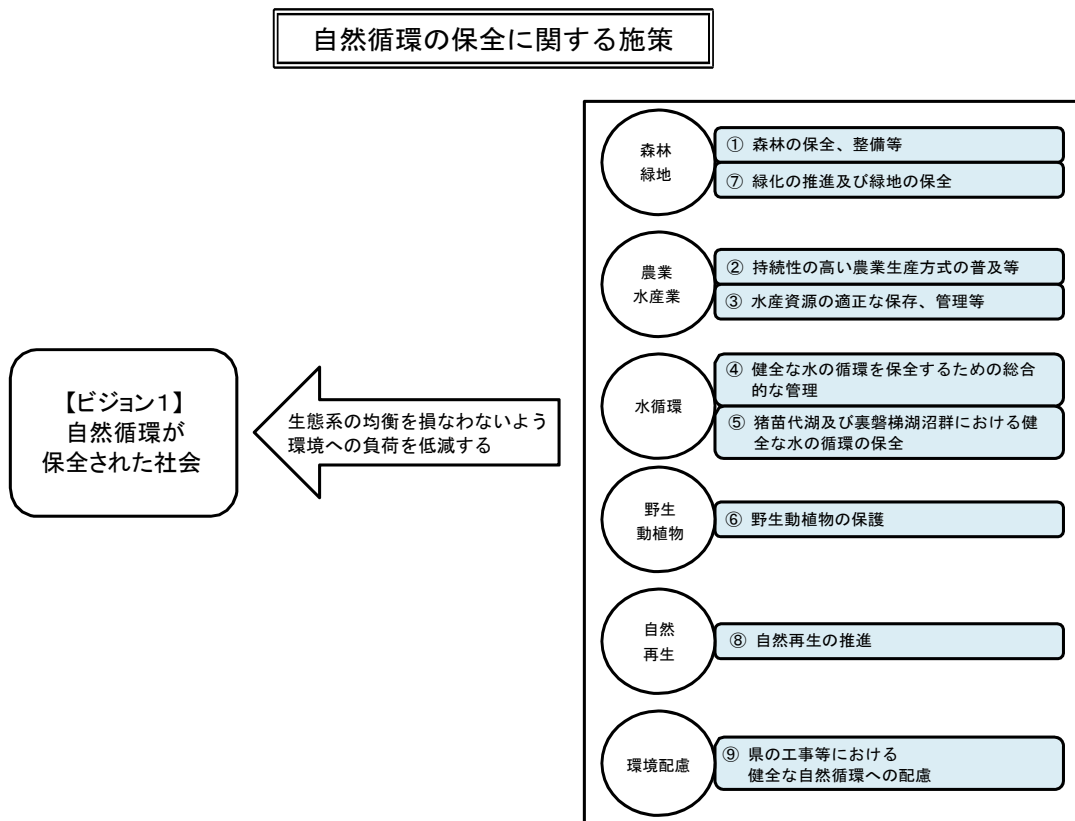


第6章 施策の展開

資料 No.2 (P. 4)

1 自然循環の保全

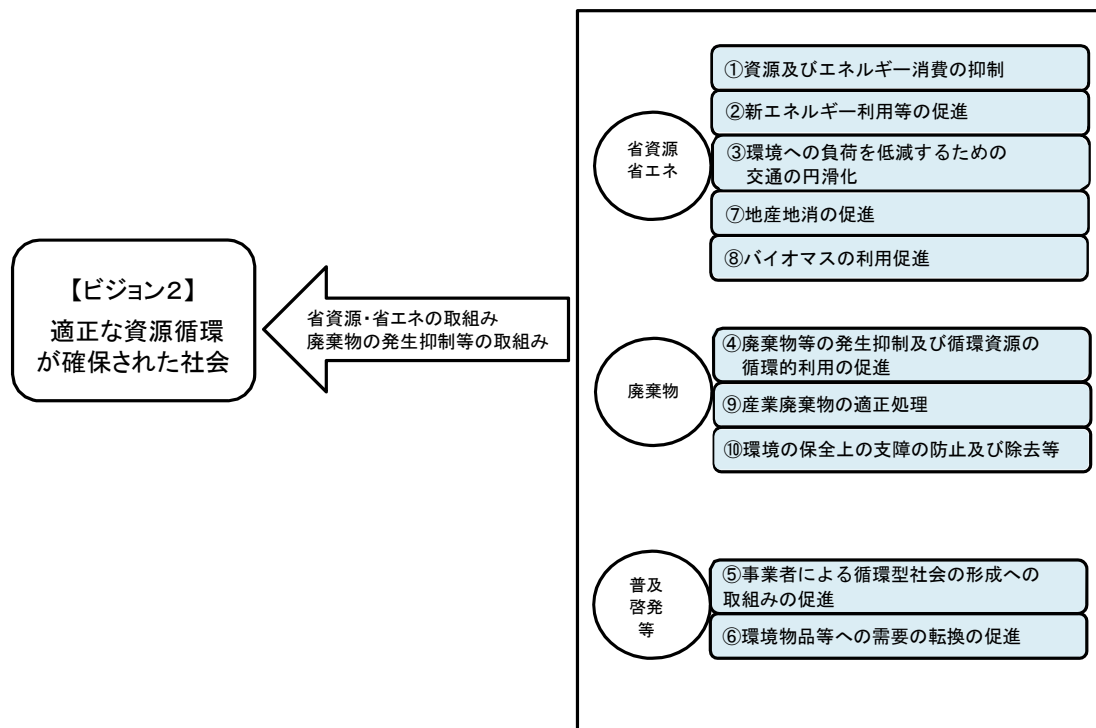
～多様な自然環境が保全された社会を目指して～



2 適正な資源循環の確保等

～地域循環システムが形成された社会を目指して～

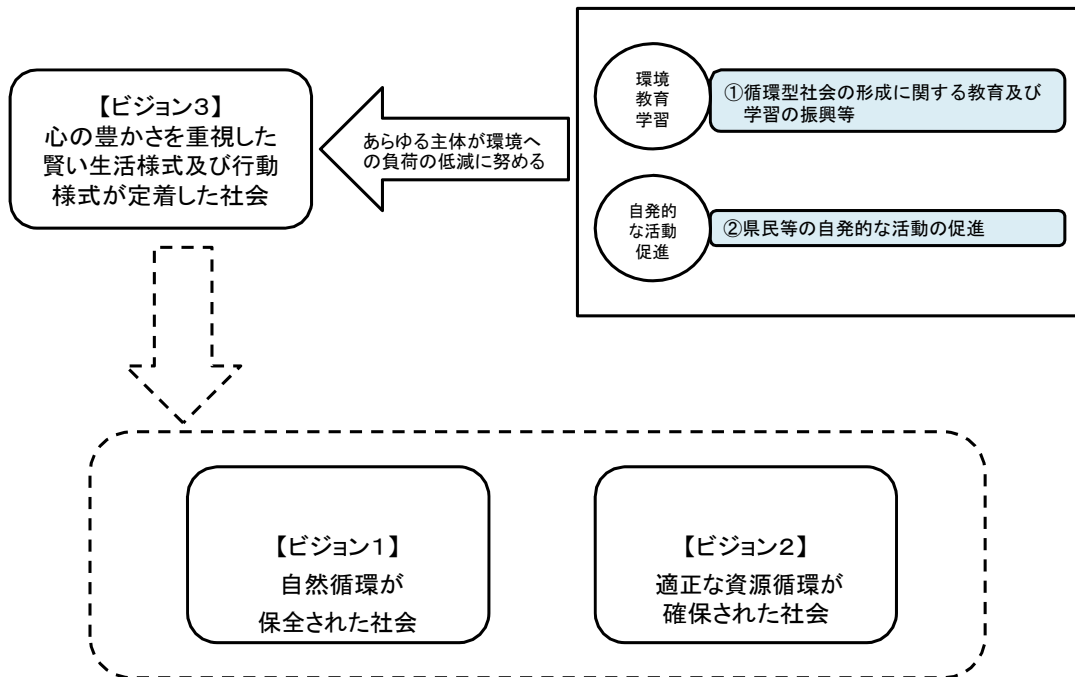
適正な資源循環の確保等に関する施策



3 心の豊かさを重視した賢い生活様式及び行動様式への転換
～賢いライフスタイルの確立による

環境に負荷をかけない社会を目指して～

心の豊かさを重視した賢い生活様式及び行動様式への転換に関する施策



福島県における物質フローの概要

天然資源の消費が抑制され、環境への負荷の低減が図られる循環型社会を形成していくためには、「入口」側としての資源の投入や「出口」側としての廃棄物の排出、さらに「循環」を表す再生資源の利用など、「物質の流れ（物質フロー）」について状況を把握することが重要です。

福島県の物質フローについて、前計画の策定時と同様の手法（※1）である各種統計データの積み上げを基礎として推計を行いました。重量ベースで平成20年（暦年）と平成23年度の状況を表したものが下図です。これらの図では、物質フローを（1）資源投入、（2）製品生産、（3）販売・購入、（4）消費・廃棄、（5）処理・処分、の5つの断面でとらえて作成しています。

※1 物質フローにはいくつかの推計方法があり、大別すると（1）各種統計データによる積み上げによるもの、（2）物流センサスを用いるもの、（3）産業連関表を主とするもの、の3つに分けることができます。前計画の策定時の推計方法は各種統計データによる積み上げによるものであり今回も同様の手法により推計しています。

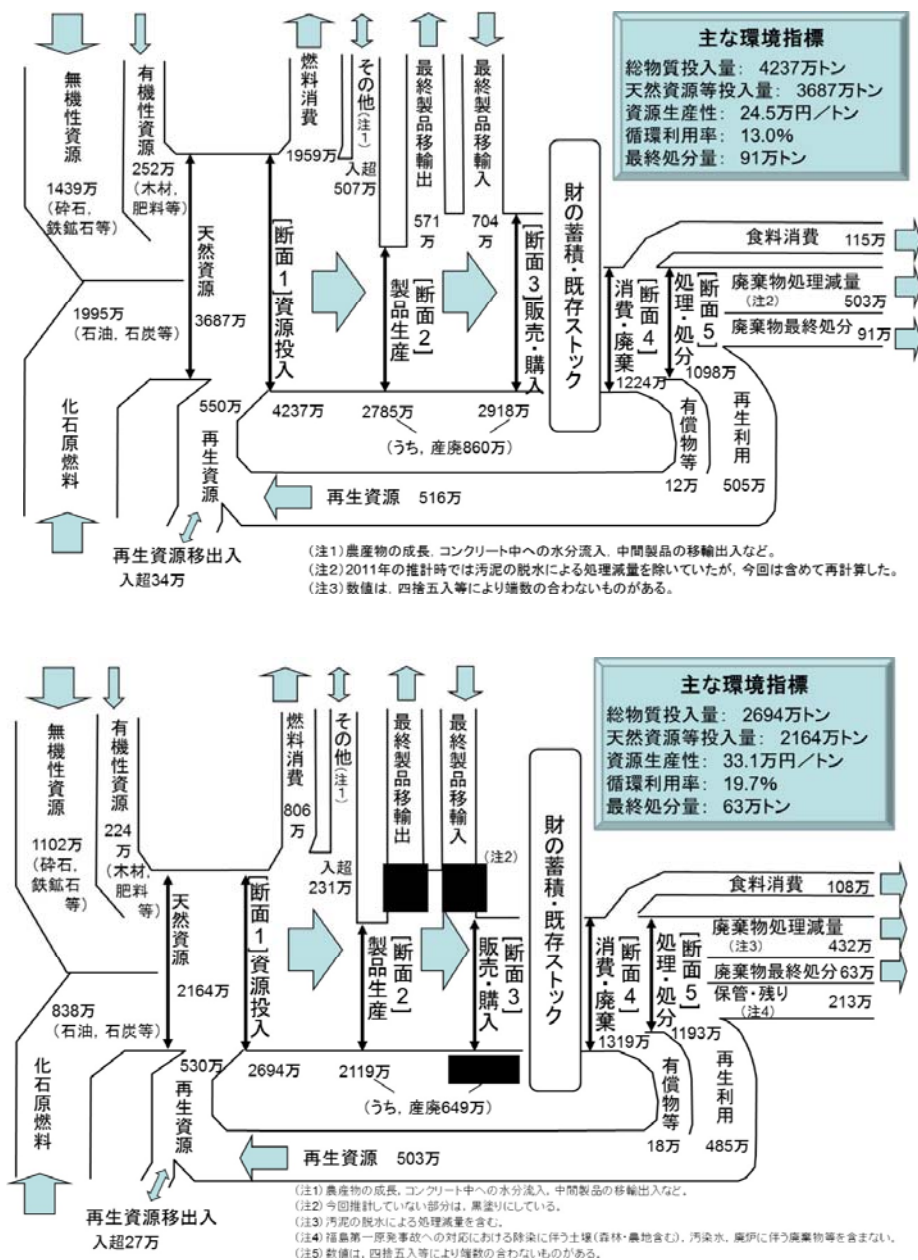


図 福島県の重量ベースによる物質フローの概要
 （上：平成20年、下：平成23年度、単位：トン）

平成20年推計時と比較すると、物質フローの代表的な指標はいずれも改善傾向にあることが分かりました。物質フローにおける「入口」「循環」「出口」の各側面の主な特徴を整理すると、次の点があげられます。

① 「入口」の特徴

「総物質投入量」は約4,237万トンから約2,694万トンへ36.4%減少し、「天然資源等投入量」も41.3%減少しました。天然資源等をどれだけ効率的に利用したかを表す「資源生産性」は約24.5万円/トンから約33.1万円/トンへ上昇し、変化率では35.3%改善しました。

「総物質投入量」のうち、石油や石炭などの無機性資源が約1,995万トンから約838万トンへと半分以上に減少しました。この主な理由は、化石原燃料の大きな割合を占める火力発電用の石炭消費量が、約1,415万トンから約446万トンへと3分の1になったことによります。

② 「循環」の特徴

再生資源の投入量である「循環利用量」は約550万トンから約530万トンへ3.6%減少しましたが、再使用や再生利用の取り組み状況を表す「循環利用率」は、総物質投入量が大幅に減少したことから13.0%から19.7%へ上昇し、変化率では51.6%改善しました。再生資源の内訳では、がれき類の約199万トン(38%)と動物のふん尿の約109万トン(21%)が大きな割合を占めています。平成20年推計時と比較すると、これらの順位が逆転しました。

③ 「出口」の特徴

処理・処分される廃棄物は約1,193万トンへ約95万トン増加しました。内訳は一般廃棄物が約74万トン、産業廃棄物が886万トンであり、平成12年と比べて、処理・処分される廃棄物の量は12万トンほど増加していますが、埋め立てられる「最終処分量」は約91万トンから約63万トンへ減少し、変化率では30.6%改善しています。「最終処分量」が資源投入の総量に占める割合である「最終処分率」も、2.1%から2.3%へやや悪化しています。

なお、参考値として、平成20年度および平成23年度における全国の物質フローに関する指標の値と変化率を掲載します。資源生産性や循環利用率は、産業構造の違いによっても左右され、また、福島県と全国では推計方法が異なっているため、単純な比較はできませんが、このような指標の改善状況を把握することにより、循環型社会の形成に向けた取り組みを進めていくことが求められます。

表 福島県および全国における物質フローに関する指標の状況

物質フローに関する指標		福島県			<参考>全国		
		平成20年	平成23年度	変化率 (%)	平成20年度	平成23年度	変化率 (%)
入口	A. 総物質投入量(万トン)	4,237	2,694	-36.4	173,700	157,100	-9.6
	B. 天然資源等投入量(万トン)	3,687	2,164	-41.3	149,200	133,300	-10.7
	C. 資源生産性(=D/B)(万円/トン)	24.5	33.1	35.3	36.1	38.5	6.6
	(D. 国・県内総生産(億円)) ^{※2}	90,219	71,662	-20.6	5,057,947	5,137,421	1.6
循環	E. 循環利用量(万トン)	550	530	-3.6	24,500	23,800	-2.9
	F. 循環利用率(=E/A)(%)	13.0	19.7	51.6	14.1	15.1	7.1
出口	G. 最終処分量(万トン)	91	63	-30.6	2,200	1,700	-22.7
	H. 最終処分率(=G/A)(%)	2.1	2.3	9.1	1.3	1.1	-15.4

(注) 国・県内総生産については、実績値を使用した。福島県は県民経済計算の実質値。全国のA, B, C, E, Gは環境白書・循環型社会白書等から引用し、Dは内閣府のウェブサイトから引用したが、CとD/Bの値が異なるところがある。